五泉市都市計画マスタープランの策定にあたって

平成 18 年に誕生した新生「五泉市」では、「人と自然が織りなす 創造都市 五泉市」、を将来像とし、平成 19 年 9 月に第 1 次総合計画を策定しました。この計画は、「人と人」「人と自然」のふれあいを大切にし、地域資源を最大限に活用しながら、市民との協働による個性豊かで創造性に満ちたまちづくりをめざすものです。

そのまちづくりの最上位計画である第1次総合計画の考え 方を受け、平成19年度より2ヵ年にわたり、「都市計画マス タープラン」を策定してまいりました。このマスタープランは、 市民まちづくり会議や、市役所庁内の策定委員会、同調整委員 会等による討議を重ね、都市計画審議会の承認を経て、概ね2 0年後の五泉市の土地利用や都市基盤の整備の方針などを示 したものです。



計画では集約型都市構造(コンパクトシティ)の実現を目指し、目標とする都市像を「2つの市街地の魅力向上と連携、集落環境との調和」と定め、市街地の拡散や郊外化を抑え、高齢化社会や環境にも配慮し、2つの市街地間や市街地と集落を公共交通等のネットワークで結び、相互に機能を補完し合い、暮らしやすいまちを創ることとしています。

その考え方を市民の皆様に広く知っていただくことを目的に、さる2月14日に、長岡技術科学大学環境・建設系教授中出文平先生をお迎えし、「都市計画・まちづくりシンポジウム」を開催したところです。中出先生には、「コンパクトなまちづくりに向けて」と題した基調講演の中で、現在の都市計画の考え方をわかりやすく解説していただきました。また、さまざまな分野で活躍されている市民の皆様とまちづくりについてのパネルディスカッションを行ったところです。このシンポジウムを通し、市民の皆様からコンパクトなまちづくりや、行政と市民の協働の必要性を再認識していただいたことと思っています。

マスタープランの策定は、住み良いまちづくりの第一歩です。市民の皆様のご理解とご協力により、この計画の考え方に沿って各施策を実施し、さらに住み良いまちを作っていかなければなりません。

最後に、マスタープラン策定にお力をお借りしました「まちづくり市民会議」、「都市計画審議会」委員の皆様、及び貴重な意見等をいただきました市民の皆様に感謝申し上げます。

2009(平成21)年3月



第1章 計画の位置づけ	
(1)都市計画マスタープランとは	2
(2)計画の目標年次と対象区域	5
第2章 都市づくりの現況と課題	
(1)都市の現況	8
(2)市民の意向と課題認識	22
(3)五泉市の都市づくりの主要課題	25
第3章 目標とする都市像	
(1)基本的な考え方	30
(2)五泉市の将来都市構造	35
第4章 都市づくりの戦略	
(1)戦略の位置づけ	40
(2)5つの戦略	42
(3)将来の土地利用方針	45
第5章 将来像を実現するための都市づくりの方針(戦略	別方針
(1)戦略1 都市の魅力向上	57
(2)戦略2 街なかの再生	
(3)戦略3 農村集落環境の維持と保全	
(4)戦略4 移動環境の改善	
(5)戦略5 参加協働の仕組みづくり	95
第6章 地域別にみた都市づくりの方針(地域別方針)	400
(1)地域別方針の考え方	
(2)「五泉市街地」の地域別方針	
(3)「村松市街地」の地域別方針 (4)「農村集落地域」の地域別方針	
(4) 辰州朱洛地域)の地域別力到	
第7章 計画の実現に向けて	
(1)計画的・効率的な都市づくり	116
、	
参考資料	121

都市計画マスタープランの文章表現について

五泉市都市計画マスタープランでは、各文章において、実施主体や計画の熟度 に応じて表現方法を整理しています。これにより、市民・行政・事業者・その他 関係機関等の役割分担などがわかるようにしました。

表現方法	実施主体等	計画熟度
~めざします。 ~を図ります。	市が主体、市民と協働	・目標、方向性に関する事項
~育みます。	市民と協働	
進めます。推進します。取り組みます。整備します。	市が主体	・すでに事業着手されている事項 ・概ね10年以内に優先的に取り組 む事項 ・総合計画や新市建設計画に位置づ けられている事項。
~努めます。	市が主体	・目標達成に時間がかかるが、継続 して取り組んでいく事項
~検討します。	主体が決定していない	・目標の実現に向けて、庁内・関係 機関・市民等との協議・調整・検 討が必要な事項
~を誘導します。 ~を促進します。 ~を働きかけます。	市が事業者等の取り組 みを誘導・促進	
~を支援します。	市が市民の活動を支援	